
「令和7年度 飼料用米多収日本一」 東北農政局長賞受賞者の取組概要

(敬称略)

単位収量の部

1

岩崎 正一郎

地域の平均単収からの増収の部

2

有限会社 秋田谷ファーム
代表取締役 秋田谷 和智



いわさき しょういちろう
岩崎 正一郎 (岩手県岩手郡岩手町)

| 品種 | 作付面積 | 単収 | 地域の単収との差(地域の平均単収) |
|-------|-------|-----------|------------------------------------|
| たわわっこ | 6.4ha | 727kg/10a | 169kg/10a (558kg/10a) [※] |

※作柄調整後の地域の平均単収



【経営概況】

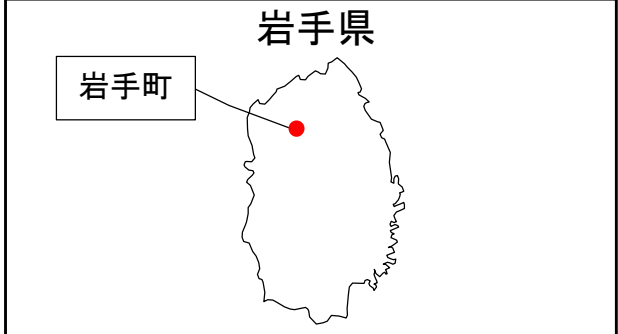
○ 家族経営(本人・妻・息子夫婦)

【作付品目】

○主食用米 あきたこまち、めんこもち 6.2ha
 ○飼料用米 たわわっこ 6.4ha

【取組のきっかけ】

○ 経営の安定化に繋がることから、約10年前から「たわわっこ」で飼料用米生産に取り組んでいる。



【取組概要】

- 多収性があり、耐倒伏性に優れる「たわわっこ」を一貫して選定。主食用米2品種との作期分散に取り組んでいる。
- 土づくりとして稲わらをすき込み、施肥管理は、①育苗箱に箱剤「育苗まかせ」を600g/箱で施用し、②基肥として「飼料用米一発24-12-12」を45kg/10aで施用する。以前よりも基肥を減らし、育苗箱施肥を多めに行うことで、肥効や生育が均一になり、倒伏が減少し多収に繋がっている。
- 雑草防除は、ヒエ・シズイ防除として、「クリンチャーバス」をハイクリブームで散布する。
- 省力化を図るため、プール育苗、フレコン出荷等にも取り組むとともに、畦畔を除去し、1ほ場あたりの面積を拡大することで効率よく作業を行っている。
- 飼料用米は町内の牧場において養牛に供されている。また、一部の稲わらは近隣の酪農家に提供しており、地域内における循環体制が構築されている。
- 地域の生産部会等で開催される県内外のほ場視察に積極的に参加し、自身の経営に活かしている。

| 品種 | 作付面積 | 単収 | 地域の単収との差(地域の平均単収) |
|-------|--------|-----------|-----------------------------------|
| ゆたかまる | 59.2ha | 677kg/10a | 137kg/10a(540kg/10a) [※] |

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 役員4名(本人・父・息子2名)
作業員3名(母・妻等)
繁忙期:臨時雇用(毎日10名程度)

【作付品目】

- 主食用米 28.1ha
まっしぐら、はれわたり、あかりもち
- 飼料用米 ゆたかまる 59.2ha
- 大豆 12.3ha 等

【取組のきっかけ】

- 経営の安定化に繋がることから、多収性がある「ゆたかまる」で飼料用米生産に取り組んでいる。

【取組概要】

- 多収性がある「ゆたかまる」を選定し、主食用米3品種との作期分散に取り組んでいる。
- 土づくりとして、①県内の養鶏会社から購入した鶏ふんを100kg/10aですき込み、②全ての稲わらをすき込む。また、施肥管理は、田植えと同時に一発肥料「キセキコート」を50kg/10a(窒素成分では10kg/10a)で施用する。十分な土づくりを行うとともに、刈り取りの遅い飼料用米に合わせて肥効期間の長い肥料を選択する等により、追肥をせずとも多収を実現している。
- 病害虫防除は、いもち病防除として、「ビームゾル」を無人ヘリで散布する。雑草防除は、①田植えと同時に初期剤「アークエース」を施用し、②田植えから2~3週間後に初中期一発剤「FG剤(水面で自己離散する薬剤)」を畦畔から投げ込み、③水持ちの悪いところには「アクシズMX1キロ粒剤」や「ジャンダルムMX1キロ粒剤」を無人ヘリで追加散布する。
- 省力化を図るため、プール育苗、疎植栽培(場所に応じて37株あるいは50株/坪)等に取り組み、無人トラクターやKSAS等のスマート技術も活用しながら、大規模経営に取り組んでいる。
- 地域内で協議会を設立し、情報収集や意見交換の実施等、地域内で連携しながら飼料用米の生産に取り組んでいる。



青森県

五所川原市
(旧市浦村)